

不審者に備え設備一新



不審者役の可児署員の動きを刺股で封じる職員たち＝可児市瀬田の可茂学園で

可児の障害者施設が訓練

可児市瀬田の知的障害者支援施設「可茂学園」で二十二日、不審者対応訓練があった。二〇二六年七月に相模原市の施設で十

九人が刺殺された事件を受けて防犯設備を整えたばかりで、可児署などと協力して初めて実施した。
(神谷慶)

可茂学園には十〜七十代の通所者二十五人と入所者六十人がいる。相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」の事件を踏まえ、不審者対応マニュアルを昨年策定し、今年一月には防犯センサー、防犯カメラ、警察へのワンタッチ非常通報システムを整備した。機器の操作や警察への情報伝達に慣れることが訓練の狙いだ。

職員二十人が参加し、可児署の三輪哲久生活安全課長から不審者と距離を空けて対応することや刺股、イスを使って相手を制圧する方法を学んだ後、実践訓練に臨んだ。

不審者役の署員が玄関で「子どもに会いに来た。自分で迎えに行くわ」と押し入ろうとすると、対応した女性職員は脇の事務所に異変を告げ、別の職員は危険を知らせる合言葉の館内放送を行った。

た。放送で利用者に避難も呼び掛けた。

刺股を持って駆け付けた男性職員たちは模造刃物を手に暴れる相手を取り押さえた。通報装置のある部屋へ走り、実際に警察とやりとりして状況を伝える役を担った職員もいた。集合した利用者の安否確認もあった。

職員たちは「優しげな人だと、すぐに不審者と気付くのが難しそう」「刺股で相手を取り押さえるのは一人では難しい。二〜三人で協力しなくては」「通報者は一瞬しか不審者を見られないので、誰かに追加情報を伝えてもらうことが必要」と感想を語った。

日本防災通信協会県支部の赤堀彰茂統括支部長らが講評し「不審者を見た人は可能な範囲で電話の場所まで行き、追加の情報を伝えてほしい。まずは早くボタンを押して、けが人の有無を伝えることが大切」と助言した。

安藤千秋副園長(ネ)は「万が一のことがないよう願っているが、今後も訓練して機器やシステムを有効活用できるようにしておきたい」と話した。



可児



鳥

二科会 山田 雅子
(土岐市泉が丘町)

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

2018年(平成30年)
2月24日(土)